

中学校

平成 13 年 度

教育研究員研究報告書

技 術 ・ 家 庭
(家 庭 分 野)

東京都教職員研修センター

平成13年度

教育研究員名簿

区市町村名	学校名	氏名
新宿区	落合第二中学校	三沢 順子
品川区	戸越台中学校	○原 郁子
葛飾区	綾瀬中学校	◎金子 一枝
町田市	南大谷中学校	生田目 典子
東久留米市	久留米中学校	加茂 圭子

◎ 世話人 ○ 副世話人

担 当 東京都教職員研修センター指導主事 倉持 眞由美

目 次

I 研究主題設定の理由	2
II 研究の内容	
1 「生活に生きる力」を育てるために	2
2 研究の構想	3
3 問題解決的な学習の段階的な指導	
【 A 生活の自立と衣食住 】	4
【 B 家族と家庭生活 】	5
4 問題解決的な学習を段階的に学べる全体的な指導計画	6、7
5 評価について	8
6 指導事例	
事例1 生活にすぐ生かせる題材で生徒が主体的に学習する事例	9
元気いっぱい生活しようー私の献立カード作りー	
事例2 調べ学習と相互発表、実習で課題を解決する事例	13
食材を選んでかしこく食べよう	
事例3 自分の食生活を見つめ、課題に気付き解決する事例	16
がんばれ！ フードファイター	
事例4 段階的な学習により問題解決能力を高める事例	19
幼児を知り 自分を知ろう	
III 研究のまとめと今後の課題	24

研究主題

問題解決的な学習を通して、「生活に生きる力」が育つ指導の工夫

I 研究主題設定の理由

技術・家庭科では、生活を工夫したり創造したりする能力と実践的な態度を育てることが目標となっている。しかし、子どもたちの実態を見ると、世の中の大きな変化とともに時間的なゆとりをもたなくなっていたり、家庭生活の電化や家庭の仕事の社会化が進んでいたりして生活体験が乏しくなっている。そのため、生活をよりよくしようという意識をもちにくい現状である。子どもたちの家庭生活が、参加型ではなく受け身型になっていることは否めない。そこで、積極的に家庭生活にかかわり、生活の自立を図ることができる生徒を育て、技術・家庭科の目標に迫りたい。

そのためには、生徒が生活に必要な基礎的な知識と技術を習得すること、問題解決的な学習を指導に取り入れ、生活の問題に気づき、解決するための学習の過程を学べるようにすることが必要である。そして、学校での学習を家庭で生かし、家庭での経験等を学校での学習に生かすなど相互の関連を図ることによって、「生活に生きる力」が育つと考え、本研究主題を設定した。

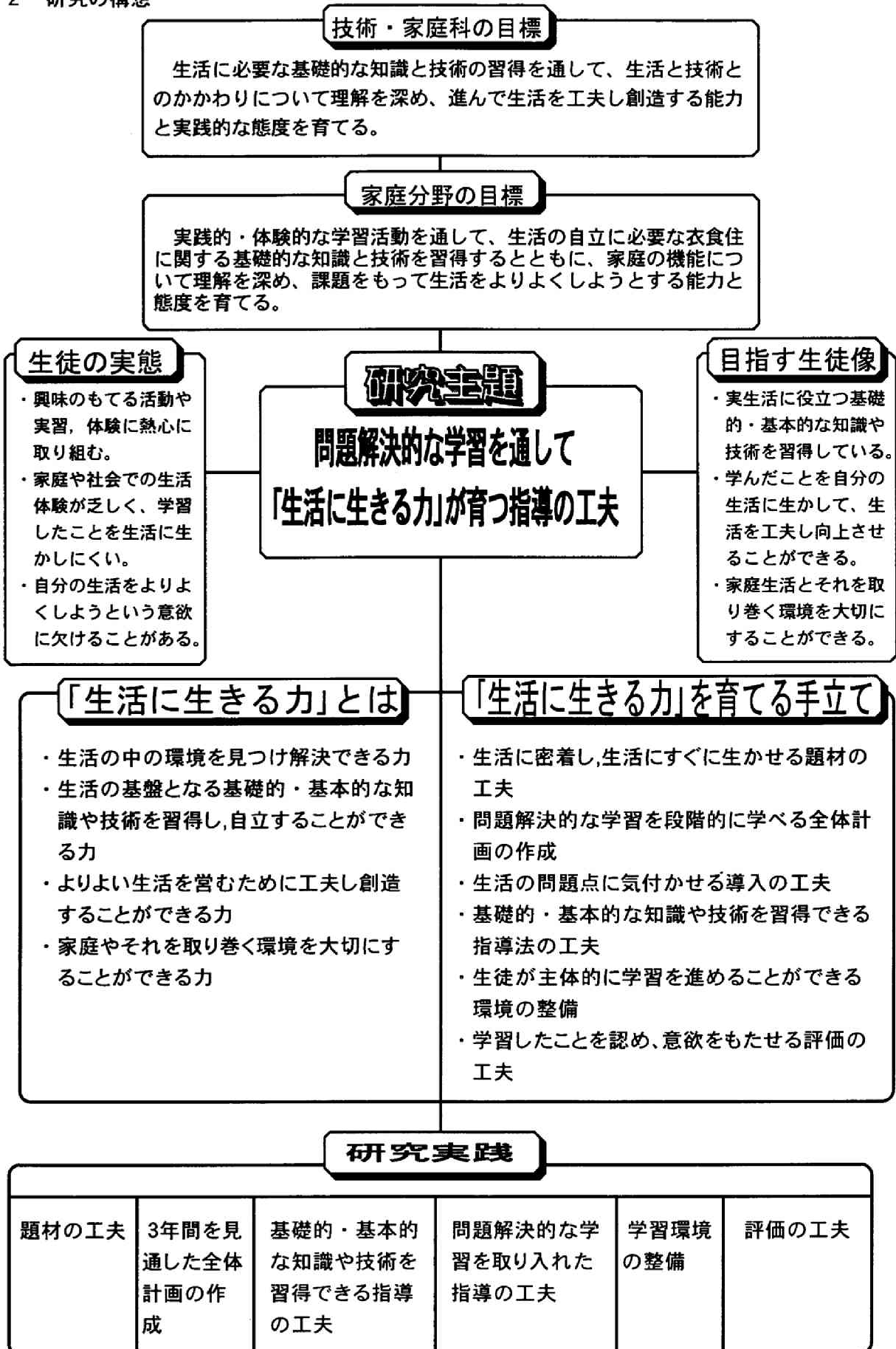
II 研究の内容

1 「生活に生きる力」を育てるために

本研究では、「生活に生きる力」を①生活の中の課題を見つけ解決できる力、②生活の基盤となる基礎的・基本的な知識や技術を習得し自立することができる力、③よりよい生活を営むために工夫し創造することができる力、④家庭やそれを取り巻く環境を大切にすることができる力ととらえ研究を進める。

「生活に生きる力」を育てるためには、主体的に生活に取り組む意欲をもたせることが大切である。しかし、生徒は意欲をもって生活に取り組んでも自分の知らない新しい問題にぶつかりと意欲を失ってしまうこともある。そこで、学習したことをそのまま生活の場で生かせる題材を取り上げるとともに、段階を追って、問題解決的な学習を繰り返し、問題解決能力を育てることが必要である。問題解決能力が身に付いていれば、激しく変化する社会で生活していく中、よりよい生活を築くために自ら課題をもち、自ら考え判断し解決して行くことができると考えられる。そのため、問題解決的な学習を組み入れた3年間の全体指導計画を考えることとした。問題解決的な学習では、課題を把握し、設定する段階が重要である。本研究では自分で課題が設定できるように、生徒の生活に密着した内容を題材として、1学年では取り組みやすいものからはじめ、学年が上がるにつれて意識が高まる学習となるよう計画を立てた。学習の中で課題の解決を繰り返すことを通して、家庭でも新たな課題に目を向けたり、解決していくことができる「生活に生きる力」が育つよう題材を検討した。評価についても研究を行い、生徒を的確に評価することで、自信をもたせ、子どもによりよい助言を与えることにより「生活に生きる力」を育てていくことを目指した。

2 研究の構想



3 問題解決的な学習の段階的な指導

【 A 生活の自立と衣食住 】

食生活にかかわる内容で、問題解決的な学習を段階的に取り入れ、「生活に生きる力」をはぐくんでいく3つの事例を取り上げた。

ステップⅠでは、教師が提示する問題点のある献立例を見て、「栄養バランスの悪さ」に多くの生徒が容易に気付き、「栄養バランスのよい献立を作る」ことが共通の課題となる。学習は、パソコンソフトにある多数の料理から適切なものを選ぶこと、食材の追加や分量を簡単な操作で変更することで進む。課題、解決方法ともに一つのパソコンソフトの操作の中で見つけ、解決することができ、またそれらは生徒に共通しているので、教師は支援しやすく、生徒同士でも相談しやすい。

ステップⅡでは、加工食品を活用した「中学生ランチ」を作ることを課題にする。そのために、生徒に日常の生活で加工食品を購入している実態に目を向させ、加工食品を選択するポイントを書籍や消費生活センターの印刷物、インターネット、加工食品の実物などにより調べていく。選び方が分かったら自分たちで実際に材料を購入して「中学生ランチ」を作る。

ステップⅢは、3学年最後の題材である。自分の生活や自分を取り巻く環境の中から解決したい課題を見つける。解決のため、各自で調べたり、班で調べたりする必要がある。調理実習も各々の経験や調べたことを生かし、創意工夫をすることが大切なので、それぞれ方法が違う。課題、解決方法ともに、各自で考える。課題をつかめなかったり、解決が困難な生徒もいるだろうが、教師が適切な助言や資料などを与えたり、生徒同士で助け合ったりしていく中で、自分のやり方に自信をもたせ、問題解決能力を高めていく。

発表の場をどの事例においても設けた。自分が気付かなかった課題について理解させたり、自分の新たな課題としてとらえさせたりして、学習が深まるようにした。

	ステップⅠ＜事例1＞	ステップⅡ＜事例2＞	ステップⅢ＜事例3＞
題材	『私の献立カード作り』 (5時間)	『食材を選んでかしく食べよう』 (14時間)	『がんばれ! food fighter』 (6時間)
つかむ	献立作成では、栄養バランスを考えることに気付く。 共通する1つの課題	加工食品を自分たちで選び「中学生ランチ」を作る。 共通する1つの課題	自分の食生活を振り返り改善したいテーマを設定する。 課題を自分で見つける
解決する	パソコンソフトで、栄養バランスを診断しながら、献立を作成する。 用意された共通のパソコンソフトで作成する。	加工食品の選び方を考え、選び方を調べ、選び方が分かる。 書籍や消費生活センターの印刷物、インターネットなどで、調べる。	テーマを解決する方法を調べ、調理実習の計画を立て、実習する。 調べ方、実習方法を自分で考え、実践する。
生かす	作成した献立や、発表の中から選んだ料理のレシピを印刷し、献立カードを作成する。 献立カードを使って、調理する。	材料を自分たちで購入し、「中学生ランチ」を作る。 生活に生かす	調理実習で実践したことを発表し、学び合う。 家庭で実践し、自分の食生活に生かす。

【 B 家族と家庭生活 】

題材「幼児を知り 自分を知ろう」(20時間扱い)において、つかむ→解決する→生かす段階を取り、問題解決的な学習となるように小題材を設定した。

ステップⅠでは、生徒が自分の成長を振り返る学習と保育実習で幼児と遊ぶ体験を通して幼児についての関心を喚起する。さらに、保育実習の『たっぷり遊ぼう』では、幼児と遊んだ体験の中で生じた疑問やもっと知りたいことを生徒が課題としてつかみ、インターネットや資料などの調べ学習を行い、課題を解決する。この学びは**ステップⅡ**の学習に生かす。

ステップⅡでは、自分で対象となる幼児を設定し、その幼児にふさわしいおもちゃやおやつを作ることを課題とし、課題の解決を図る。制作したおもちゃは**ステップⅢ**の『ふれあいタイム』で生かす。

ステップⅢでは、『ふれあいタイム』で親子をゲストティーチャーに招き、既習の事項の中でさらに深めたいことや新たに知りたいことを課題として、親子と触れ合う体験を行う。

	つかむ	解決する	生かす		
小題材名	ステップⅠ	ステップⅡ	ステップⅢ		
	大きく なった ね	『たっぷり 遊ぼう』	『〇〇ちゃん 好きなおも ちゃだよ』	『みんな大 好き、お やつ作り』	『ふれあい タイム』
つかむ	家庭や家族のかかわり	発達段階に応じて、どのようなおもちゃが適し、好まれるのか考え課題にする。	おやつ的重要性を理解し、どのようなおやつが適し、好まれるのか考える。	幼児を知ろうとする。 ・幼児とどうかかわっていけばよいか考える。	家庭生活や家族の中での機能や役割を知ること、人との
解決する	自分の成長を考え	対象となる幼児に合う遊び道具を考え、計画、製作を通して幼児の運動や情緒の発達を知る。	おやつ作りの計画、実習を通して、幼児の食生活の重要性や特徴を知る。	・幼児とのかかわり方を工夫する。 ・自分の課題をかかわり合いで解決する。	
生かす	振り返る	・おもちゃ制作やおやつ作りなどの実習に生かそうとする。 ・身近な幼児に関心をもって、触れ合おうとする。	・制作したおもちゃを「ふれあいタイム」で幼児と遊ぶことができる。	・幼児のおやつ作りを通して、さらに幼児の食生活に関心をもつ。	・幼児のために自分ができることを知る。 ・家族の態度や思いから、自分の成長を振り返り、人とのかかわりを深める。
幼児について、新しい課題をもつ					

4 問題解決的な学習を段階的に学べる全体的な指導計画

「生活に生きる力」を育てるために、3学年を通して問題解決的な学習を取り入れた題材を工夫し、題材の時間数を決めて適切な位置に配置し、全体計画を作成した。

特に、食生活にかかわる学習を、1学年の当初に配置したのは、技術・家庭科への興味・関心を喚起させ、さらに生活に生かしやすいと考えたからである。

学年	学期	1 学 期																	
		月	4			5			6			7			9				
			週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
1 学 年	題材名	元 気 い っ ぱ い に 生 活 し よ う																	
	小題材名	元気の素、栄養の素			食品のグループ			私の献立カード作り			栄養生士さんへの			栄養生士さんへの			食材を選んで		
	時間	10時間									14時間								
	学習指導要領の事項	A(1)ア、イ、ウ									A(2)ア、イ								
	人 は な ぜ 食 べ る	5 つ の 素	私 に 必 要 な も の	ど の グ ル ー プ	1 日 に 食 べ る 量	献 立 を た て る ？	献 立 を た て る ？	栄 養 士 さ ん の	栄 養 士 さ ん の	栄 養 士 さ ん の	栄 養 士 さ ん の	栄 養 士 さ ん の	栄 養 士 さ ん の	栄 養 士 さ ん の	栄 養 士 さ ん の	栄 養 士 さ ん の	栄 養 士 さ ん の	栄 養 士 さ ん の	栄 養 士 さ ん の
2 学 年	題材名	自 分 ら し く ス テ キ に 着 よ う ！																	
	小題材名	My コ ー デ ネ イ ト			衣 し 服 て の ま ケ す ア か ？			衣 服 A 選 び B の C			衣 服 3 の R っ て ？			大 き く な っ た ね					
	時間	12時間									3時間			1					
	学習指導要領の事項	A(3)ア、イ、ウ									B(4)ア、イ			B(1)					
	私 は 優 秀 な 消 費 者	優 秀 な 消 費 者	環 境 に よ う に 生 き	日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品	日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品	日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品	日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品	日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品	日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品	日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品	日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品	日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品	日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品	日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品	日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品	日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品	日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品	日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品	日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品
3 学 年	題材名	私は優秀な消費者			環境にやさしい生活			伝統料理にチャレンジ			がんばれ！フードファイター								
	小題材名	優 秀 な 消 費 者			環 境 に よ う に 生 き			日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品			日 本 の 伝 統 的 な 食 料 品								
	時間	5.5時間			6時間			6時間											
	学習指導要領の事項	B(4)ア、イ			A(5)ア、イ														
	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用	同 題 分 割 の 活 用

5 評価について

生徒に意欲をもたせる評価の工夫を検討した。

(1) 評価計画の作成

題材の目標をはじめに設定し、この目標が評価の4つの観点に対応できるようにした。その上で、題材の具体的な評価規準を設定し、評価の観点、評価方法を明らかにした評価計画を作成した。さらに、評価計画に沿って実際の指導の際の判定の尺度を明らかにして実践授業に取り組んだ。

○評価規準
指導計画の目標に照らし合わせ、学習内容で何を評価するのかという規準を明確にし、その具体例をまとめた。
○判定の尺度
授業の内容に対し、どの程度理解できたか判定する尺度を設定、ワークシートの記入状況や態度を観察するなど、何によって評価するのか方法をあげた。

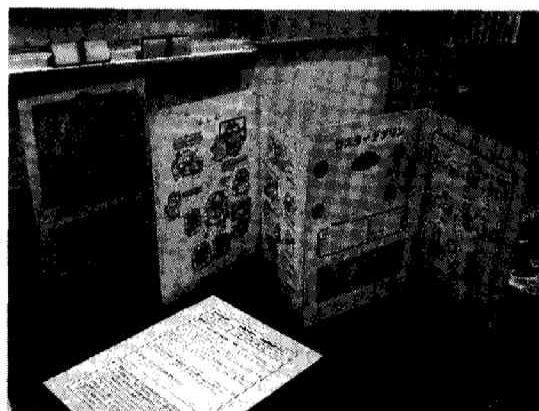
ポートフォリオ	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なファイリングではなく教師の指導と生徒の学習と評価を結び付ける。 ・生徒一人一人の振り返りの目安とする。 ・基準をもって内容の選択をする。 ・生徒の変容を把握できる。
活用法	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と個別に話し合うことで、学習の過程を振り返らせ、努力するめあてを明確にする。 ・問題解決のための計画や反省に活用 ・学習の定着を図るため、基準に達成しているかを自己評価する。 ・学習計画表－学習の計画や目標を記録する。
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察記録－観察の記録・レポート ・ヒントカード－つまづきへの支援 ・学習記録－問題解決と学習の記録 ・相互評価記録－他への感想、励まし ・自己評価記録－理解の程度を確認 ・資料－学習した資料、写真、記録など

「評価とポートフォリオ」抜粋 高浦勝義著

(2) 問題解決的な学習の評価

問題解決的な学習は、個人やグループにより課題が異なるため、学習の過程を評価することが難しい。

そこで、自己評価や相互評価を行う。さらに、第1学年でファイリングを活用し、第2学年でポートフォリオを活用して継続的な評価を行う。



○自己評価（セルフチェック）	○ファイリング評価	○ポートフォリオ評価
評価規準に対応させ、生徒が授業を振り返り、理解の度合を認めさらに意欲をもたせるために取り入れた自己評価である。生徒が指導目標に到達しているか判断でき、教師も授業の内容を振り返り、改善していくことに役立つ。	資料やワークシートなど全てをまとめてファイリングし、各々の評価や学習結果のまとめとしても評価することができる。	学習した中から、自分の基準で重要なものを選択し、問題解決的な学習の振り返りの目安にもなり、結果だけでなく生徒の変容を把握することができる。

6 指導事例

事例 1	生活にすぐに生かせる題材で生徒が主体的に学習する事例 元気いっぱい生活しようー私の献立カード作りー
------	--

(1) 題材設定の理由

中学生にとって食べることは楽しみである。成長のために栄養が大切なことも認識している。しかし、実際は、大人が用意したものをそのまま食べることが多く、偏食や欠食も多い。食生活は健康や成長に深くかかわることを正しく理解させ、栄養を考えた健康的な生活を営む意欲と力をもたせたい。

ここでは、まず、栄養素のはたらきなど基礎的なことを学習し、それを活用しながら献立作りを行い、基礎の定着を図る。献立作りはパソコンを活用した。生徒は自分の考えや好みを簡単に入力し献立を作成する。さらに作成した献立は印刷してファイリングできるので、自分で調理するなど実際の生活に役立つものとなる。生徒が主体的に学習し、実生活に生きる力が育つと考え、本題材を設定した。

(2) 題材の目標

- ① 栄養と食事について関心をもち、自分の食生活をよりよくしようとする。(関心・意欲)
- ② 課題をもって献立を作成し、食生活が豊かになる工夫をする。(工夫創造)
- ③ 中学生の栄養と食事について、調べたり、まとめたりできる。(生活技能)
- ④ 栄養や食事についての基礎的な知識と献立作成の方法を理解する。(知識・理解)

(3) 生活に生きる力を育てる手だて

- ① 最初に栄養についての基礎的な知識を学習し、それを献立作成の際に使い、定着を図る。
- ② 献立作成の導入では、生徒がよく知っている食品を扱い、関心をもたせる。
- ③ パソコンを使い、主体的に学習が進められるようにする。
- ④ 発表会やワークシートで、意欲をもたせる評価を与える。
- ⑤ 実際に調理しやすいように、献立やそのレシピを印刷してファイリングし、自分の献立カードとする。

(4) 指導計画(10時間扱い)

時	題材	小題材名	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1	人はなぜ食べる		<ul style="list-style-type: none"> ・食物や食事の役割を話し合う。 ・自分の食生活を点検する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が問題点に気づきやすいワークシートを用意する。
2	栄養素	5つの素	<ul style="list-style-type: none"> ・5大栄養素と水について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集などを使用する。
		私に必要なものは	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養所要量などを活用し、中学生の時期の栄養の特徴を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成長曲線のグラフなどを用意する。
2	食品グループ	どのグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・6つの食品群の特徴を考え、食品成分表などを用的食品を分類する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常食ることが多い食品の写真・絵などで分類させる。
		1日に食べる量	<ul style="list-style-type: none"> ・食品群別摂取量の目安を使い、1日に必要な食品の概量を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・概量が分かりやすいよう食品のサンプルを用意する。

5 問 題 解 決 的 な 学 習	私 の 献 立 カ ー ド 作 り 解 決 す る 栄 養 士 さ ん か ら 調 理 師 さ ん へ 生 か す	好きなもの で献立をた てたら (本時) 課題を つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 好きなものだけを組み合わせた献立例から問題点を考える。 好きなもので、献立をたててみる。 食品群別摂取量の目安と比較し、自分の献立の問題点を明らかにする。 献立をたてるときの課題を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> パソコンソフトを利用する。 課題をつかみやすくするため問題点の著しい献立例をパソコン画面上に提示する。 課題は、栄養に関する内容で設定させる。
		献立をたてるには 基礎基本 の学習	<ul style="list-style-type: none"> 献立作成のよりよい手順を考える。 献立作成で、留意することを考える。栄養、料理の組み合わせ、季節、調理時間、費用など 	<ul style="list-style-type: none"> 献立例の写真を見せる。 栄養以外にも留意することを押さえるが、今回は栄養を主に考えることを知らせる。
		栄養士さん の献立	<ul style="list-style-type: none"> 栄養バランスのよい献立を考える。 ソフトで診断しながら、料理や食品の組み合わせ・分量を調節する。 自分の献立の長所を生かし、特徴ある献立を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭で実践したいものや調理実習で作ってみたいものを取り入れるよう助言する。 献立を印刷させる。
		解決する 栄養士さん から調理師 さんへ 生かす	<ul style="list-style-type: none"> 各自の献立を発表する。 発表の記録を取る。 自分の献立や発表から生活に生かせる献立を印刷し献立カードを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 献立の特徴などを言わせながら、画面上で発表させる。 献立カードを使って、家庭で実習することを課題とする。

(5) 評価計画 (10時間扱い)

時間	題材名 (指導内容)	評価規準	関 心 意 欲	工 夫 創 造	生 活 技 能	知 識 理 解	評価方法
1	人はなぜ食べる (食事の役割 健康と食事)	<ul style="list-style-type: none"> ①食事の役割りについて関心をもっている。 ②自分の食事、食習慣を見直すことができる。 ③食事の役割や健康とのかかわりについて理解している。 	①		②	③	観察 発言内容 ワークシート記入 状況
2	元気の素 栄養の素 (栄養素の種 類と働きと 中学生の栄 養)	<ul style="list-style-type: none"> ①栄養素や中学生の時期の栄養の特徴に関心をもち、自分の食生活にあてはめ考えている。 ②栄養所要量などを用い中学生の時期に必要な栄養を考え、食事の取り方などを工夫する。 ③栄養素の種類と働きについて調べたり、まとめたりすることができる。 ④五大栄養素や水の働きを理解している。栄養所要量について理解し、中学生の時期の栄養の特徴が分かる。 	①		②	③ ④	観察 発言内容 ワークシート記入 状況
2	食品のグル ープ分け (食品の栄 養的特質、中 学生に必要 な一日の食 品)	<ul style="list-style-type: none"> ①食品の栄養に関心をもって学んでいる。 ②食品の栄養的特質について食品成分表等を使い調べることができる。食品群別摂取量のめやすなどを使い、中学生に必要な一日の食品の概量等を調べることができる。 ③食品の栄養的特質について理解し、食品を6つの基礎食品群に分けることができる。食品群別摂取量のめやすについて理解している。 	①		②	③	観察 発言内容 ワークシート記入 状況
5	献立カード 作り (中学生の 献立)	<ul style="list-style-type: none"> ①意欲的に献立作りに取り組んでいる。 ②特徴ある献立作りができる。作った献立を使い自分の食生活を豊かにする。 ③中学生に必要な栄養量をみだすバランスのよい献立を作成できる。 ④献立作りの手順を理解している。献立作成ソフトの操作を理解し、献立作りができる。 	①		② ③	④	観察 発言内容 発表内容 ワークシート記入 状況 ソフト操作状況 献立カード

(6) 本時の学習 「好きなもので献立をたてたら」

① 目標

「めんどくさがりやさんの献立」

朝食:チーズバーガー、フライドポテト
 昼食:カップラーメン
 夕食:牛丼

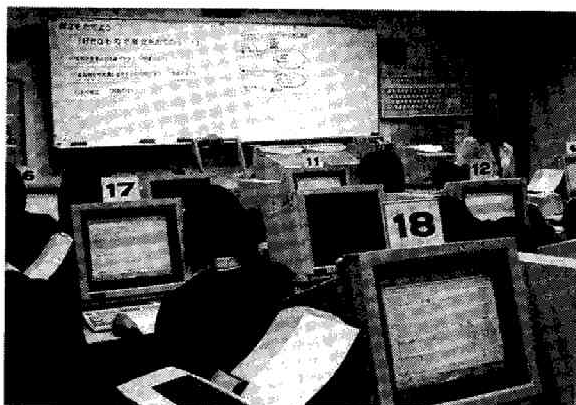
- ・好きな物だけでたてた献立の問題点分かる。
- ・パソコンによる献立作成に関心をもち、意欲的に取り組む。
- ・献立をたてる時は、栄養バランスを考える必要があることが分かる。

② 展開

学習活動	指導上の留意点と支援	評価	教材・教具
<ul style="list-style-type: none"> ・「めんどくさがりやさんの献立」の問題点を考える。 ・パソコンの画面上で栄養所要量との比較グラフをみて、問題点を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分量や内容を想像しやすいように献立例の容器などを見せる。 ・栄養バランスから考えさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・献立例の実物容器 ・パソコン ・親機画面送信
<ul style="list-style-type: none"> ・「好き嫌いOK献立」の作成過程を画面上で見ながら、パソコンソフトの操作方法を理解する。 ・食品群別摂取量のめやすと比較し、問題点を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトの料理一覧より料理を選び、献立をたてながらソフトの操作方法を説明する。 	1 「好き嫌いOK献立」は偏りがあることが分かったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・親機画面送信 ・ワークシート
<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンで献立をたてる。 ・献立表と食品群別摂取量のめやすとの比較グラフを印刷する。 ・食品群別摂取量のめやすと比較し、自分の献立の問題点を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな物で、簡単に決めるよう指示する。 ・印刷方法を説明する。 	2 献立をたてることができたか。 3 自分の献立の栄養上の問題点を理解できたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・操作方法説明図 ・親機画面送信 ・プリンター ・ワークシート
<ul style="list-style-type: none"> ・献立をたてる時の課題を考える。 ・自己評価表を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は、栄養バランスのよい献立をたてることを予告する。 	4 献立をたてる時の課題をつかむことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・自己評価表

「好き嫌いOK献立」

朝食:トースト、ハムエッグ、ポテトサラダ
 昼食:チャーハン、餃子
 夕食:ご飯、しょうが焼き、みそ汁



献立をたてよう「好きな物で献立をたてたら・・・」

- 「めんどくさがりやさんの献立」をみてみよう
 朝食:チーズバーガー、フライドポテト(フレンチフライ)
 昼食:カップラーメン(インスタント食品)
 夕食:牛丼(持ち帰り弁当)
- 「好き嫌いOK献立」をみてみよう(パソコンの操作方法を覚えよう)
 朝食:トースト、ハムエッグ、ポテトサラダ
 昼食:チャーハン、餃子
 夕食:ごはん、しょうが焼き、みそ汁

問題点(長所)はなんだろう?
 2. 牛丼がおいしい。(全体的に:曲、ほろ...) 4

- さあ、あなたも「好き嫌いOK献立」をたてよう
 朝食:木曜をうすいお茶(ふた) *おけりー
 昼食:(フレンチフライ)
 夕食:ポテトサラダ、レタス、ニラ、ブロッコリー
 朝食:ポテトサラダ、レタス、ニラ、ブロッコリー
 夕食:ポテトサラダ、レタス、ニラ、ブロッコリー

問題点(長所)はなんだろう?
 1. 3、5、6が9割いん、おけりーも入れた。
 5が朝〜夜が平等
 *おけりーを印刷して献立その1を印刷し直そう。
 *めやすと比較するためのグラフを印刷しよう。
- 献立をたてる時には、どんな問題があるだろうか。
 バランスがとれない。嫌いなものをいれる。
 *これから、どんなことに気を付けて献立を考えたいだろうか。
 自分のこれまでの食生活を振り返ってみよう。

きょうのセルフチェック

① 3つの献立例の問題点がわかりましたか?	はい	まあまあ	いいえ
② 1日の献立をたてられましたか?	△	○	○
③ (4:1日分、5:1週間分、6:1ヶ月分)をたてられましたか?	△	○	○
④ パソコンの操作方法がわかりましたか?	△	○	○
⑤ 献立をたてるときの問題点がわかりましたか?	△	○	○

③ 判定の尺度（1～4は前記②展開の表中の評価と対応）

評価の観点	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	評価方法
1 知識・理解	特に不足・やや不足している食品群が分かる。	偏りがあることが分かる。	分からない。	ワークシート
2 工夫創造	1日分の献立をたてることができる。	1～2食分の献立をたてることのできる。	献立がたてられない。	操作観察 ワークシート 自己評価表
3 関心・意欲 生活技能	栄養上の問題点（または長所）を見付け、ワークシートに記入できる。	問題点（または長所）を見付け、ワークシートに記入できる。	分からない。	ワークシート
4 知識・理解	献立をたてるときは、栄養上のバランスを考えて作ることが大切なことが分かる。	献立をたてるときの課題が分かる。	分からない。	ワークシート

(7) 考 察 ① パソコンの利用について

生徒の半数はパソコンの操作が初めてだったが、パソコンの利用を楽しみにしており、生き生きと取り組んだ。機器の設置状況は、2人に1台であった。操作に慣れるまでは、相談しながら進めることは効果的だが、慣れると1人に1台パソコンがある方が望ましい。好きな料理を選んだ初めての献立は、栄養バランスの悪いものが多かった。しかし、めやすとの比較が瞬時にグラフでできるので、栄養の偏りに簡単に気付いた。画面上で偏りを実感した後は栄養バランスを考えた献立作りに意欲的になり、教科書や資料集を自ら使い、食品の栄養や料理について調べながら作成する姿が多く見られた。献立作成の前に学習した内容の復習にもなり、定着を図ることができた。自分が好きな献立の調理方法を印刷して持ち帰ったので、家庭で実際に調理した生徒が多かった。

【生徒の献立の変化の例】初めの献立

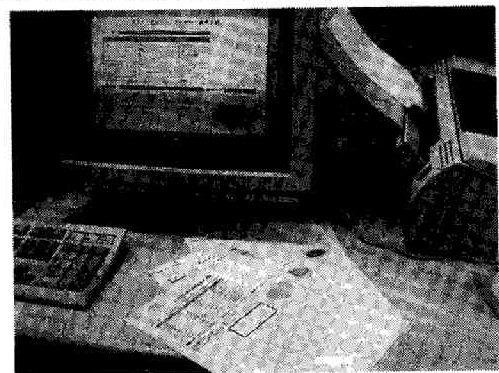
朝：ご飯、みそ汁、煎茶
 昼：ロールサンド、ミルクシェイク
 夕：ツナご飯、コーンスロサラダ、わかめスープ



できあがりの献立

朝：トースト、目玉焼き、フレンチサラダ、チーズ、牛乳
 昼：チャーハン、コンスープ、オレンジ
 夕：ご飯、さばのみそ煮、きんぴらごぼう、けんちん汁

本時の授業について、判定の尺度に照らしてみると、約80%の生徒が「十分満足できる」状態であった。献立作成の導入の授業としては、目標が達成されたと考える。



② 導入の工夫

生徒になじみのある食品での献立例での導入は、生徒の興味・関心を喚起できた。

③ ファイリング

プリントアウトしたレシピなどの資料やワークシートは、すべてファイリングさせておくビニール製のファイルは使いやすく、調理の際は見やすく水などにも強いので、とても役立った。

事例 2	調べ学習と相互発表、実習で課題を解決する事例 食材を選んでかしこく食べよう
------	--

(1) 題材設定の理由

近年 J A S 法の改正など食品表示の充実が図られ、より多くの情報が消費者に知らされるようになった。消費者にとっては、これらの情報が食品購入の際の判断材料となる。

一方、生徒の食品購入の現状を見ると、食品を何気なく購入したり、親まかせになっていたりする傾向がある。そこで、食品の表示等に関心を持ち、用途に応じた食品を自ら選択できる実践力を身に付けさせたい。このことが、自立した消費者としての第一歩となると考えるからである。そのためには、生徒自身がよく購入する食品を取り上げ、生徒が食品の表示に関心を持ち、様々な表示を自ら調べ、その意味を読みとる活動を通して、食品の選択にかかわる知識と技術を身に付け、学んだことを調理実習や実際の生活に生かせるようにしたいと考え、本題材を設定した。

(2) 題材の目標

- ① 身近な食品の表示に関心を持ち、表示内容の情報収集に意欲的に取り組む。
(関心・意欲・態度)
- ② 生鮮食品の良否を見分ける観点を考え、生鮮食品を見分けることができる。(生活技能)
- ③ 加工食品の表示などの意味を読みとり、加工食品を選ぶ観点を考える。(知識・理解)
- ④ 実際に食品を選択する調理を工夫し、昼食をつくる。(工夫創造、生活技能)

(3) 生活に生きる力を育てる手立て

- ① 生徒自身がよく購入する食品を取りあげ、興味・関心を喚起するとともに、実践に生かせるようにする。
- ② 買い物調べの実態調査からあげられた食品の表示等について、課題を設定し学習していく中で、問題解決できる力を付けるようにする。
- ③ 実際に食品を購入する活動を通して、食品の選択の知識と技術を身に付けるようにする。また、調理を取り入れ調理の技術も身に付けるようにする。
- ④ 班ごとの発表により、食品選びの観点の相互理解を行う。さらに、発表時には相互評価を行い、学習意欲を次へつなげる。

(4) 指導計画と評価計画 (14 時間扱い)

時間	題材名	学習内容	評価規準	関心意欲態度	工夫創造	生活の技能	知識理解
4	さあ簡単な調理をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・肉や野菜の調理上の性質を理解する。 ・調理実習の手順を班で考え、まとめる。 ・調理実習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①肉や野菜の調理上の性質を理解している。 ②計画的に実習ができるよう手順を考えている。 ③実習に関心をもって行い、基本的な調理操作ができる。 ④調理器具等を適切に取り扱うことができる。 ⑤安全と衛生に気を付けることができる。 	③	②	③ ④ ⑤	①

5	食品をかしこく選択しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生鮮食品の見分け方を知る。 ・ 食品の購入について実態調査を行う。 ・ 加工食品の種類・用途を知り、表示やマークの意味を調べる。 ・ 班ごとに調べたことと品を公表し、加工食品を選ぶときの観点を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 生鮮食品を適切な観点から良否を見分けることができる。 ② 表示内容の情報収集に意欲的に取り組む。 ③ 加工食品の表示などの意味を理解している。 ④ 加工食品を選ぶ観点を考え、理解している。 	②	④	①	① ③ ④
5	中学生を上手にランチを選ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養のバランス、加工食品の活用を条件に、献立を考える。 ・ 班ごとに材料を選び、購入する。 ・ 調理実習を行う。 ・ 食品購入の理由、購入時の観点について考え食品の選択についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 栄養のバランスを考え、加工食品を活用したランチの献立を作成する。 ② 食材を適切に選び購入することができる。 ③ 調理法、盛りつけを工夫し、調理ができる。 ④ 食材選択の観点が分かり、生活に生かそうとする。 	① ④	① ③	② ③	

(5) 本時の学習

- ① 目標
- ・ いろいろな加工食品の表示・マークの内容や、その分からない箇所の意味について理解する。
 - ・ 食品を選ぶ時の観点を考え、それを踏まえて選ぼうとする。

② 展開

学習活動	指導上の留意点と支援	評価	教材
<p>各班ごとに「加工食品の表示・マークを調べよう」を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 班員全員で、分担をして発表をする。(誰もが1回は発表) ・ 発表を聴いている人は、ワークシートに記入をしながら聴く。主に食品を選ぶときのポイントを理解しながら書き取っていく。 ・ 発表後、各自でワークシートをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の授業で行った表示・マーク調べの発表を行うことを伝える。 ・ 発表の仕方、聴き方について説明をする。(発表する人は、分かりやすく説明するよう心がけること。聴いている人は、食品を選ぶ時の観点を押さえるよう助言する。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表者は、分かりやすく説明をすることができたか。 ・ 聴いている人は、説明をよく聴いたか。 ・ ワークシートに加工食品を選ぶ時のポイントが書けたか。 	<p>発表用紙 (マーク等の図) ワークシート②</p>
<p>今後食品を選ぶ時、実行してみようと考え、班で意見交換し、まとめる。→まとめ用紙</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 班内で各自がまとめた食品を選ぶときのポイントについて意見を交換し合う。このとき、付せんに自分の意見を書き、班員に見せる。 ・ 付せんの意見を見ながら同じようなものはまとめ、用紙に記入する。 →提出 (時間があれば、班ごとにまとめ用紙の発表を行う。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分でまとめたワークシートを活用するなど、発表で理解したことを踏まえて班で話し合うよう助言する。 ・ ワークシートとまとめ用紙を提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポイントを付せんに書いたか。 ・ 班内で班員と意見を交換しているか。 ・ 食品を選ぶポイントがまとめることができたか。 	<p>まとめ用紙 付せん</p>
<p>次回は、「中学生ランチ」の献立作成をすることを知らせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習を踏まえ、班ごとに献立を考え材料も選ぶことの説明を行う。 		

(6) 考 察

① 課題の設定

食品の表示に興味・関心をもてるよう生活に身近な生徒がよく利用するコンビニエンスストアやスーパーマーケットで購入する加工食品を調べることから始めた。生徒に買い物アンケートを実施し、よく選択購入している食品を調べ、「清涼飲料水」「おにぎり」「パン」「カップめん」「アイスクリーム」「おかし」「あめ、ガム」「プリン、ゼリー」について調べることを課題とした。

調べ学習に消極的だった生徒も自分の生活に即していたので次第に興味をもって取り組んだ。

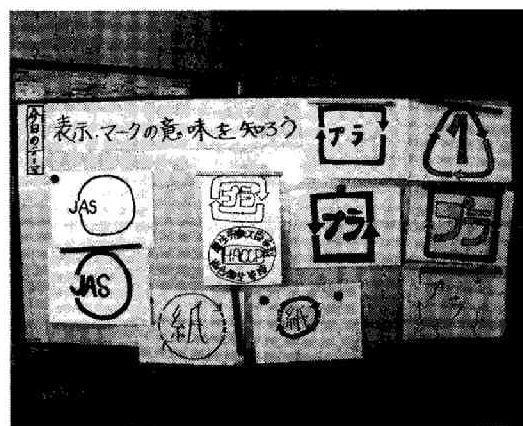
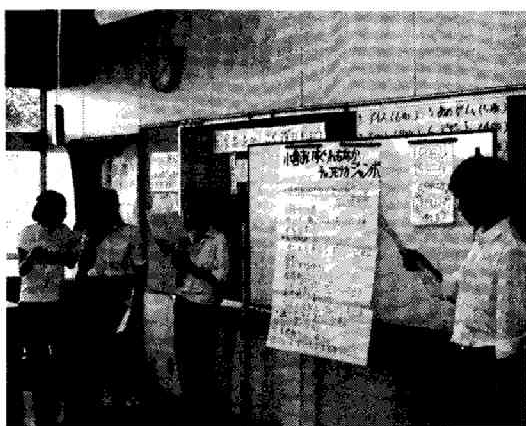
② 班での話し合い活動

各班で調べ発表をした加工食品の表示・マークをみて、食品を選ぶポイントについて各自で考えた意見が出しやすいように付せんを利用した。このことにより一人一人の生徒の意見が出され、班の意見まとめが円滑に進むとともに、自分の意見が取り上げられたことにより自信をもつようになった。

③ 授業後の変容

調べ学習をする前と後に、買い物実態調査を行い、学習した成果を知る手がかりとした。結果は下表のようになった。これにより生徒の食品を買うときの基準が表示やマークを読み取って選ぶことへと変化したことが分かる。さらに、調理実習のときに自分たちで食品選びを行ったので実践力につながったと考える。

自分で食品を買うとき、何を基準にして選びますか？	授業前	授業後
・見た目がいいもの	83人	12人
・値段が安いもの	129人	52人
・コマーシャルを見て選ぶ	10人	10人
・なんとなく食べたいから	74人	24人
・食べてみておいしかったから	88人	45人
・栄養を考えて選ぶ	6人	37人
・材料名をみて選ぶ	3人	63人
・食品添加物を見て選ぶ	8人	90人
・消費期限、賞味期限、品質保持期限を見て選ぶ	62人	106人
・その他(栄養成分表)	0人	23人



事例 3	自分の食生活を見つめ、課題に気づき解決する事例 がんばれ！フードファイター
------	--

(1) 題材設定の理由

食生活は、各家庭を中心に営まれており、その内容は実に多種多様である。その理由として食品の豊富さ、生活様式の違いなどが考えられる。また社会では、健康を考えた食生活の重要性について取り上げられることが多くなってきた。そのような現代、じょうずに食品を選び、健康的な充実した食生活を営むことのできる力が大切といえよう。

そこで日常の食生活を更に向上させるために、自分の食生活を振り返り、問題意識をもつ必要があると考えた。食品の選択や調理方法などを工夫し、食生活を改善することによって、一層豊かな食生活を営む力が身に付くと考え、本題材を設定した。

(2) 題材の目標

- ① 自分の食生活に関心を持ち、課題を見つけることができる。(関心・意欲)
- ② 今までに学んだ知識や技術を生かすことができる。(生活技能、知識理解)
- ③ 各自のテーマに合わせて食生活を改善したり一層豊かにするために、調べ、工夫し、テーマに合った調理実習ができる。(工夫創造、生活技能)

(3) 生活に生きる力を育てる手だて

- ① 食生活の問題点に気づくヒントになる献立例と資料を用意し、自分の食生活を振り返りやすくする。


献立例: 欠食のある献立、野菜不足の献立
◆資料: 水質汚染、材料の無駄遣い、品質表示、塩分の摂取量、過食、加工食品への依存

- ② 食生活を改善するために、各自が課題を考え、解決したことが生かされるように調理実習を計画し、実践する。
- ③ 調理実習をすることにより、基礎的な技術を身に付けたり、うまく課題が解決できたかを振り返ったりして、生活に生かせるようにする。
- ④ ワークシートに記入することによって学習をすすめ、セルフチェックをすることで自己の達成度合いが確認できるようにする。

(4) 指導計画と評価計画 (6時間扱い)

学習過程 小題材名	つかむ 自分の食生活の問題点は何?	解決する 自分のための献立を作ろう	計画に従って調理してみよう	生かす 反省・まとめ
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活を振り返る。 ・改善したい点を考える。 ・テーマを設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿って、工夫をし、調理実習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に従って調理実習をする。 ・調理実習を振り返り、課題が解決できたかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習で実践したことを発表し合い、学び合う。

指導内容	時間	評価規準	関心意欲	工夫創造	生活技能	知識理解	評価の方法
「がんばれ！ food fighter」(食生活を向上させるための工夫)	1	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活に対し関心、問題意識をもつ。 ・グループで協力して話し合い、テーマを設定することができる。 	○	○		○	観察 ワークシート 発表用紙 調理実習計画表、調理実習
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫をし、テーマに合わせた調理実習計画を立てる。 	○	○	○	○	

	2	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に意欲的に取り組もうとする。 手順を考え、計画的に調理実習ができる。 調べたことや工夫が生かされ、課題が解決できたかを振り返る。 	○	○	○	○	チェック表 観察、調理実習 計画表 調理実習 チェック表 観察 発表用紙 ワークシート
	1	<ul style="list-style-type: none"> 実践結果をまとめ、他の生徒に発表できる。 調理実習や他の生徒の発表を応用し、家庭で実践しようとする。 	○	○	○		

(5) 本時の学習

- ① 目 標
- 自分の食生活を振り返り、問題意識をもつ。
 - よりよい食生活を営むために必要なことを知り、問題意識を深める。

② 展 開

	学習活動	指導上の留意点と支援・評価	教材・教具
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 食生活を向上させるために、自分の食生活を振り返り、問題点に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品をかきこく選んで、健康を維持するフードファイターになることを提案する。 そのために各自課題を設定することを説明する。 休日の食事のメモを見ることにより、問題点に気付くことができるようにする。 <p>1 自分の食生活を振り返り、問題点を考えることができたか。</p>	食事記録用紙
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 献立の具体例をみてどうしたらよい献立になるかか意見を交換する。 食生活に関するいくつかの資料を見て、気付いた点を発表し、メモをする。 よりよい食生活を営むために必要なことをもとにし、自分の食生活の問題点を再考する。 各自が食生活の課題を設定し、グループを作る。 グループごとに、テーマを決め、具体的に工夫したい点を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題のある献立の具体例を見せ、問題点を考えさせることにより、自分の食生活を見つめさせる。 食生活に関するいくつかの図、表、写真などを見せ、問題点に気付きやすくする。 <p>2 資料を見て、食生活の問題点を考えることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今までの学習を振り返ることで、食生活を向上させるための課題を考えるよう助言する。 <p>3 自分の食生活を向上させるための課題に気付くことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題はワークシートに記入させ、同じ課題の者同士グループを作る。 グループごとに意見交換をしながら、献立作成のテーマ、どんな工夫をしたいかを考えるよう伝える。 テーマを発表用紙に書かせる。 	資料（図・表・写真など） ワークシート ワークシート 発表用紙 マジック
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> テーマを互いに確認し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各班のテーマが確認できるように、黒板に掲示する。 <p>4 同じような課題のグループごとに、テーマを設定することができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次回はテーマに沿った、調理実習計画を立てることを予告する。 	ワークシート 発表用紙

本時の評価規準と判定の尺度

評価規準	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	評価方法
1 自分の食生活を振り返り、問題点を考えることができる。 関心・意欲・態度 知識・理解	自分の食生活をよく理解し、問題点を書くことができる。	自分の食生活を振り返り問題点を書くことができる。	問題意識をもとうとするが、問題点を上手に書くことができない。	観察 ワークシート
2 資料を見て食生活の問題点を考えることができる。 関心・意欲・態度 知識・理解	ワークシートに7～8個記入し、問題点を発表しようとする。	考えようとするがワークシートの記入が3～6個できる。	考えようとしないう。ワークシートの記入が0～2個。	観察 ワークシート
3 自分の食生活を向上させるための課題に気付くことができる。 工夫創造 知識・理解	課題を考えることができ、発表できる。	課題をうまく考えられないが、助言により課題を書ける。	課題が分からない。	観察 ワークシート
4 グループでテーマを設定できる。 関心・意欲・態度 工夫創造	グループの中で積極的に意見を言い、テーマを決めることができる。	テーマを決めることができる。	テーマを決めようとするが、意見が言えず、他の意見に同意する。	観察 ワークシート 発表用紙

(8) 考 察

① 題材名「がんばれ！フードファイター」と導入の工夫

フードファイターという言葉は日本では大食い選手権のような場面で使われており、本来の意味とは異なるが、生徒にはなじみのある言葉である。

そこで米国で使われる「food fighter」を提示することにより、興味・関心をもたせた。それにより生徒それぞれがフードファイターの視点で、食生活を振り返ることができた。

<p>フードファイターとは</p> <p>食品を選び、賢く食べて生活習慣病にかからない健康な食生活をしている人を指す。フードファイトは米国の食育に使われるキーワードの1つである。</p> <p>「今こそ食育を！元気を作る選食・食戦」</p> <p>砂田登志子著による</p>
--

② 課題設定をしやすくするための献立例、

資料の提示とワークシートの活用

はじめに、自分自身の食事記録を見せ問題点を発見できるようにした。次にいろいろな角度から、短時間で食生活の問題点を考えやすくするために、献立例や食生活に関する資料をパワーポイントを活用して提示した。

また、実際の食品のパッケージも提示することにより、興味をもたせた。さらに、ワークシートは、他の生徒の意見も聞きながらまとめ、各自が自分の生活に照らし合わせて学習を進められるように工夫した。

<p>生徒が設定したテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1日3食」 ・「ザ☆ベジタリアン」 ・「バランス考」 ・「容器も食べる」 ・「Goodなバランス beautifulなbodyになろう」 ・「自分の力でおいしいご飯を作ろう（加工食品を使わない）」など
--

その結果、各自が課題設定を短時間ですることができ、グループごとのテーマ設定も円滑であった。評価については、生徒自身がどこまで理解し考えることができたかをワークシートのセルフチェックの欄に記入するようにした。また、教師が座席表を用意し、観察による評価が記入できる工夫をしたことで、一人一人の生徒の到達度を見ることができた。

<p>がんばれ！ food fighter 食生活をもっとよくなる</p>	
<p>1 自分の食生活の問題点は何だろう。(献立の記録を参考にしよう)</p> <p>問題点 栄養のバランスが悪い。(特に野菜)</p>	
<p>2 資料の献立の問題点を書き出してみよう。</p> <p>献立1 朝の献立がパン・ジュースだけ ではいけないと思う。</p> <p>献立2 夕ご飯の栄養が自分にとっていなくて、バランスが悪い。</p>	
<p>3 資料を見て気付いた問題点をメモしよう。</p> <p>資料1 朝食の献立がパン・ジュースだけ。食生活が健康的に思えない。</p> <p>資料2 朝の献立がパン・ジュースだけ。食生活が健康的に思えない。</p> <p>資料3 食品のパッケージが汚い。</p> <p>資料4 塩分が多い。</p> <p>資料5 油が多い。</p> <p>資料6 加工食品が多い。</p>	
<p>4 自分の食生活を向上させるための課題を書いてみよう。</p> <p>課題 きちんとバランスの良い食事をとる。加工食品を減らす。</p>	
<p>5 同じような課題の仲間グループを作り、課題を解決しよう。</p> <p>テーマ 自分のでかいおいしいご飯を作ろう。</p> <p>どんな工夫をしたいか 加工食品を全く使わないでいこう。</p>	
<p>セルフチェック</p> <p>自分の食生活の問題点を考えることができたか？ はい 〇 いいえ 《</p> <p>食生活を自分で改善しようとしたか？ はい 〇 いいえ 《</p> <p>グループで話し合い、テーマを解決することができたか？ はい 〇 いいえ 《</p>	

③ 調理計画を立て、実習することにより

実生活に生かす

生徒は自分の食生活の問題点を見つけ、課題を設定することができた。その後計画を立て、調理実習を行った。食品選び、材料の購入、材料や道具の扱い、調理の仕方に工夫を凝らすなど、既習事項を生かしたり新たに調べたりしながら調理ができた。このことにより、知識・理解と技術を習得し、実生活にすぐに生かせるようにした。また、調理実習の結果を発表し合うことは、学び合いや「問題が解決できた」という自信につながり、その後の実生活に主体的に取り組めると考える。

このことにより、知識・理解と技術を習得し、実生活にすぐに生かせるようにした。また、調理実習の結果を発表し合うことは、学び合いや「問題が解決できた」という自信につながり、その後の実生活に主体的に取り組めると考える。

事例 4	段階的な学習により問題解決能力を高める事例 幼児を知り 自分を知ろう
------	---

(1) 題材設定の理由

同世代とのつきあいが中心で、幼児と接する機会の少ない中学生にとって、幼児にかかわる学習は教科書等ではなかなかイメージをつかむことができない。また、子どもが育つ環境としての家庭や家族について考える場合、生徒が自分の生き立ちを振り返ることも考えられるが、様々な家庭環境や生活背景があり十分な配慮が必要となる。そこで、直接幼児とかかわる保育実習や幼児との触れ合いを体験することで、幼児の心身の発達や生活、遊びなどの実態について、自ら課題を設定できるようにする。調べ学習や発表、実習などを段階的に行い、課題を解決していく中で、より幼児に興味や関心を高め、自然なかかわり方を身に付けていくことができると考える。さらに、幼児の成長や発達などについて学んでいく中で命を温かく見守り、人は、人とのつながりの中で生きていることに気付かせていくことが大切であると考え、本題材を設定した。

(2) 題材の目標

- ① 自分の成長を振り返り、家族とのかかわりについて関心をもつ。(関心・意欲・態度)
- ② 保育実習やふれあい実習で幼児と積極的にかかわることができる。
(意欲・関心・態度、生活技能)
- ③ インターネットや資料を活用したり、実習をしたりして、課題を解決することができる。
(工夫創造、生活技能)
- ④ 幼児にとってのおもちゃやおやつ的重要性を理解し、工夫しながら製作や実習ができる。
(知識・理解、工夫創造、生活技能)
- ⑤ 学習したことをポートフォリオにまとめ、幼児を知り、自分を知る手だてとすることができる。
(工夫創造、生活技能)

(3) 生活に生きる力を育てる手だて

- ① 保育実習や幼児とのふれあい実習、ゲストティーチャーを招いての課題解決など、実践的・体験的な活動を行い、生活に密着し生活に生かせるようにする。また、幼児にかかわる学習を通して、子どもが育つ環境としての家庭や家族について考えられるようにする。
- ② 保育実習を通して課題を設定し、調べ学習、製作や調理実習により課題を解決し、さらにふれあい実習でより充実させる。このような問題解決的な学習を繰り返し、問題解決能力が身に付くようにする。
- ③ おもちゃ製作やおやつ実習を取り入れ、基礎的・基本的な知識や技術を習得させる。
- ④ 問題解決的な学習をポートフォリオにまとめ、学習したことを振り返りながら、さらに意欲を喚起できる評価の工夫をする。

(4) 指導計画と評価計画 (20時間扱い)

時間	題材名	小題材名	課題解決			指導内容																													
			つかむ	解決	生かす																														
1		大きくなったね				幼い頃を振り返ってエピソードなどを発表し、自分の成長を知り、家族や家庭生活とのかかわりを考えさせる。																													
2		保育実習 たっぷり遊ぼう				保育実習の目的を明確にし、実習の心構えや観察のポイントを説明するなどの事前指導を行う。																													
3			課題			幼児の生活の実態を把握し、気付いたことや疑問点を課題としてとらえさせる。																													
4			①																																
5		課題を見つけ、 ～ 幼児を知ろう		①		実習を振り返り(ビデオ鑑賞)、課題をつかませる。インターネットや資料などで調べ学習をし、幼児の発達や生活について発表の準備をさせる。																													
8		身体、運動 機能、言語、 情緒の発達			①	<table border="1"> <tr> <td>調</td> <td>内</td> <td>幼児の身体、運動機能、言語、情緒の発達について発表を通して学習させる。</td> </tr> <tr> <td>べ</td> <td>容</td> <td rowspan="2">実習を振り返り、発達段階に応じた遊びや遊び道具について課題をもたせ、工夫して遊び道具を作らせる。(簡単な遊び道具の製作実習)</td> </tr> <tr> <td>た</td> <td>の</td> </tr> <tr> <td>課</td> <td>不</td> <td rowspan="2">幼児にふさわしいおやつは何かを課題として、考え作る。おやつの重要性を知る。 (簡単なおやつの調理実習)</td> </tr> <tr> <td>題</td> <td>足</td> </tr> <tr> <td>を</td> <td>部</td> <td rowspan="2">子どもの服を示し機能をつかませ、幼児の身体的特徴を確認させる。</td> </tr> <tr> <td>発</td> <td>分</td> </tr> <tr> <td>表</td> <td>は</td> <td rowspan="2">幼児の生活習慣(食事、睡眠、排泄、着脱衣、清潔)について学習させる。</td> </tr> <tr> <td>さ</td> <td>支</td> </tr> <tr> <td>せ</td> <td>援</td> <td></td> </tr> <tr> <td>る</td> <td>す</td> <td></td> </tr> </table>	調	内	幼児の身体、運動機能、言語、情緒の発達について発表を通して学習させる。	べ	容	実習を振り返り、発達段階に応じた遊びや遊び道具について課題をもたせ、工夫して遊び道具を作らせる。(簡単な遊び道具の製作実習)	た	の	課	不	幼児にふさわしいおやつは何かを課題として、考え作る。おやつの重要性を知る。 (簡単なおやつの調理実習)	題	足	を	部	子どもの服を示し機能をつかませ、幼児の身体的特徴を確認させる。	発	分	表	は	幼児の生活習慣(食事、睡眠、排泄、着脱衣、清潔)について学習させる。	さ	支	せ	援		る	す	
調	内	幼児の身体、運動機能、言語、情緒の発達について発表を通して学習させる。																																	
べ	容	実習を振り返り、発達段階に応じた遊びや遊び道具について課題をもたせ、工夫して遊び道具を作らせる。(簡単な遊び道具の製作実習)																																	
た	の																																		
課	不	幼児にふさわしいおやつは何かを課題として、考え作る。おやつの重要性を知る。 (簡単なおやつの調理実習)																																	
題	足																																		
を	部	子どもの服を示し機能をつかませ、幼児の身体的特徴を確認させる。																																	
発	分																																		
表	は	幼児の生活習慣(食事、睡眠、排泄、着脱衣、清潔)について学習させる。																																	
さ	支																																		
せ	援																																		
る	す																																		
10	幼	〇〇ちゃん	課題	②	②																														
～	児	の好きなお	②	②	②																														
12	の	もちゃだよ																																	
13	発	みんな大好	課題	③	③																														
14	達	きおやつ作	③	③	③																														
と	り																																		
15	生	とっても着			①																														
活	服	やすい幼児																																	
16		生活習慣			①																														
17		ポートフォリオ で振り返ろう	課題			ポートフォリオの整理をしながら、学習を振り返る。ふれあい実習での質問やかかわり方を考えさせる。																													
18		ふれあいタイム (本時)	④	④	④	子どもに関する質問や触れ合いを通して、課題解決を図り、かかわり方を工夫する。家族とのかかわりから周りに支えられている自分に気付かせる。																													
19		幼児を知り、自 分を知ろう				ポートフォリオの整理をしながら、これまでの学習を振り返らせるとともに、発表の準備をさせる。																													
20				①		繰り返し問題解決的な学習を行ってきた、その成果を発表させる。幼児に対して新たな課題をもたせる。																													

評 価 規 準	関 心 意 欲	工 夫 創 造	生 活 技 能	知 識 理 解	評価方法
①幼い頃の思い出やE・カードなど発表しようとする。 ②成長を振り返り、家族のかかわりについて考えようとする。	① ②				発表、ワークシート
①保育実習の目的をつかみ、実習のための心構えが分かる。 ②幼児観察のポイントをつかみ、意欲をもつ。		②		①	観察
①幼児と積極的にかかわり、幼児の生活の実態を把握できる。 ②気付いたこと、疑問点を課題としてとらえようとしている。	① ②			①	観察、ワークシート
①観察をワークシートにまとめることができる。 ②課題を設定し、解決するために工夫し調べることができる。 ③発表しやすいようにまとめることができる			① ② ③	①	ワークシート、観察
①班で工夫してまとめ、発表できる。 ②幼児の心身の発達や特徴を理解している。 ③幼児の遊びや運動機能の発達について理解している。		①	①	② ③	観察、発表
①班で工夫してまとめ、発表できる。 ②幼児の心身の発達に関連した遊びを知る。 ③対象児に合わせて安全で簡単なおもちゃ製作ができる。		① ③	① ③	② ③	実習態度、作品、ワークシート
①班で工夫してまとめ、発表できる。 ②食生活の特徴やおやつの重要性を理解できる。 ③幼児のためのおやつ作りができる。		① ③	① ③	② ③	実習態度、作品、ワークシート
①班で工夫してまとめ、発表できる。 ②幼児に適した服の特徴を知ることができる。		①	①	②	観察、ワークシート
①班で工夫してまとめ、発表できる。 ②幼児の基本的な生活の流れを知る。		①	①	②	観察、ワークシート
①今までのワークシートをポートフォリオにまとめることができる。 ②ふれあい実習の質問をまとめることができる。		① ②	①	②	ポートフォリオ ワークシート
①質問したり、触れ合ったりして、課題を解決できる。 ②子どもの生活の様子などを知る。 ③子どもとかわることで、自分を振り返ろうとする。	① ③	①	① ③	②	実習態度、観察、発表
①問題解決の整理をすることができる。 ②発表の準備をスムーズに行うことができる		① ②	① ②	②	ポートフォリオ ワークシート
①ポートフォリオを活用して発表ができる。 ③他の課題に気付くことができ、新しい課題をもとうとしている		②		①	発表態度、観察

(5) 本時の学習 (18 / 20 時間)

- ① 目 標 ・自分の課題を質問や触れ合いにより、解決できる。
 ・子どもや親とかかわることを通して、自分の育ちを振り返ろうとする。
- ② 展 開

	時間	学 習 活 動	指導上の留意点と支援	評価規準	資 料
導 入	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあいタイム」の目標や流れを確認する。 ・自分の課題を確認する。 ◎親子と保育士さん登場	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストの先生方に質問し触れ合いながら課題を解決することを説明する。 ・課題の確認をさせる。 		ワークシート 音楽
展 開	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストの自己紹介を聞く。 ・子どもの生活や子育ての様子を聞きワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気付いたこともメモするように指示する。 ・親子のかかわりをよく観察するように注意する。 		ワークシート
		【質問コーナー】 <ul style="list-style-type: none"> ・親や保育士さんに子どもについて分からないことを質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ質問をワークシートに書かせておく。 ・疑問が生じたら、また質問するように促す。 	1 自分の課題について積極的に質問する。	ワークシート
開 X 3	8	【ふれあいコーナー】 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに接し特徴を知る。 ・保育士さんに（ビデオを見ながら）実習での疑問をなげかけ、説明を聞く。 ◎親子・保育士さん退場	<ul style="list-style-type: none"> ・3グループを時間内にローテーションさせる。 ・おもちゃや服、おやつなど観察しやすいように説明してもらう。 ・ビデオの操作に注意する。 	2 工夫して幼児に触れ合うことができたか 3 実習ビデオを見て説明を理解できたか。	ビデオ、 音楽 おもちゃ 絵本
ま と め	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを整理する。 ・自分を振り返り、幼児期を思い出してみる。 ・疑問に思っていたことが解決できたか発表する。 ・自己評価を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入させ自分を振り返ることができたか考えさせる。 ・感想や成果を発表させる。 ・次回の予告（学習整理とポートフォリオのまとめ） 	4 課題を解決し自分を振り返ることができたか。	ワークシート セルフチェック

③ 判定の尺度

	評価の観点	十分満足できる	ほぼ満足できる	努力を要する	評価方法
1	関心・意欲・態度	積極的に質問し解決を図ろうとしている。	課題を解決しようとしている。	課題を解決することができない。	観察 ワークシート
2	関心・意欲・態度 工夫創造 生活技能	工夫して自分から子どもに触れ合い楽しむことができる。	子どもと触れ合うことができる。	子どもと触れ合うことができず見ていることが多い	観察
3	関心・意欲・態度 知識・理解	ビデオに興味をもち、説明を理解している。	ビデオを見て、説明を聞くことができる。	ビデオを見ても説明が理解できない	観察 ワークシート
4	関心・意欲・態度 生活技能	積極的に課題解決を図り自分を振り返ることができる。	課題をほぼ解決し、自分を振り返ろうとする。	課題を解決できず自分を振り返ることができない。	ワークシート 観察

(6) 考 察

① ふれあい実習と段階的な学習

幼児とのかかわりの少ない中学生に、幼児への関心を喚起することができた。言葉で説明をするよりまず体験することで、主体的に学習に取り組むことができると考え、保育実習とふれあい実習を計画し、実践したことは効果があった。1回目は保育実習で、実際に保育園で幼児と遊び、友達や先生とのかかわり合いを観察し、そこでいくつかの問題をつかみ、幼児への関心をもつきっかけになった。2回目は、『ふれあいタイム』で親子をゲストティーチャーに招き、家族の基盤となる親子のかかわりを見たり、幼児とのかかわり方を工夫をしたりして、今まで段階的に進めてきた問題解決的学習を結ぶ場とし、

幼児への関心→幼児を知る→自分の成長を振り返る→自分を知る

という学習の流れとなった。

② ふれあい実習とゲストティーチャー

生徒がゲストになってくれる人を自ら探し交渉することを試みた。主体的に学ぶことの意識付けである。「〇〇先生の大きなお腹どうなったかな」という興味から育児休業中の先生をゲストに招き、乳児を実際に抱く体験を得て、「わー、小さくて怖い」と感じたり、「じょうずに抱っこできたね」など、ほめられたり、また、親の子どもに向ける優しいまなざしや、「児童虐待についてどう思いますか」と質問したことに「子どもを育てる前は、どうしてそんなことができるのと思っていたが、子どもを育てると全否定できなくなる自分がある」と答えられたりして、親の子どもへの思いを感じ取っていた。このことが自分も大切に育てられてきたことへの気付きとなり、素直に自分の成長を振り返ることができた。中学校技術・家庭科では、幼児を通して子どもが育つ環境としての家庭や家族の人間関係を考える。この学習では、乳児も含まれたが



生徒が自ら探してきたことと基礎・基本の学習をした後なので採用した。

③ ポートフォリオの製作

生徒は、ワークシートや資料を、自分の基準により価値のあるものだけをまとめ、課題を常に意識しながら集積を重ねてきた。創意工夫できる紙面にするために、ポートフォリオは、屏風のように何枚もつなげていくことができるようにし、全ての学びが一目で分かり、さらに展示をしやすくした。

しかし、完成したポートフォリオを見ると、ファイリングに近く、価値のあるものを自分で選択する力がまだ育っていないことが分かった。さらに、積み重ねて選択眼を身に付けさせたい。

ざねま題値う	実習のまてめ	②観閲を見つげよ
10月15日(月)	B組 38番 氏名	
観閲のポイント テーマ【 身体の様子・運動機能 言葉とこころ 人とのむかひ 】 1. 感想…身ももさこちない。いし事と悪い事0利便があまひていふい。感情の通れが鋭い。 2. 感想…いばい活発に動い。走る。あひ百歩が強くなる。まると文章にしてし。べれり。 3. 感想…いともバワ-があり。運動能力は差がある。自分をゆえり事ができる。自分を見て欲しがる。性格の違いは、いりともてくる。		
これからの自分の課題 (観閲を通して、もっと調べてみたいと思ったこと) いっ頃から、やの子自身の個性がでてくるのが。		
調べる方法 (インターネット、新聞、雑誌、本など) 本、インターネット		
セルフチェック ① 実習のふれあいを通して幼児の心身の発達を知ることができたか。 A.よく理解できた B.少し理解できた C.あまり理解できなかった ② 幼児の遊びや基本的な生活習慣を観察できたか。 A.よく観察できた B.少し観察できた C.あまり観察できなかった ③ 幼児の幼児とのかかわり方を工夫することができたか。 A.うまく工夫できた B.少し工夫できた C.あまり工夫できなかった ④ 幼児に思いやりや温かい心をもつことができたか。 A.念まで以上にできた B.少しもできた C.あまりできてなかった ⑤ もう一度、実習に行ってみようか A.ぜひ行ってみたい B.行ってもいい C.あまり行きたくない		

III 研究のまとめと今後の課題

研究主題『問題解決的な学習を通して、「生活に生きる力」が育つ指導の工夫』を進めるに当たって、まず新学習指導要領の内容を踏まえ3年間を見通した全体の指導計画を立てた。

その際、生徒に選択して履修させる項目は、A(5)「食生活の課題と調理の応用」とB(5)「幼児の生活と幼児との触れ合い」とした。指導については段階を追って問題解決的な学習を進めることに重点を置き、食生活にかかわる3事例、幼児との触れ合いにかかわる1事例について授業実践を通して研究した。

1 研究のまとめ

問題解決的な学習で題材構成を工夫し、これらの題材を3年間を見通した全体指導計画の中に設定し、段階的に学べるようにし、「生活に生きる力」を育てる工夫をしてみた。

問題解決的な学習ではまず意欲をもたせることが重要である。生徒の生活実態に即した題材を工夫し、食品サンプルの利用やコンピュータの活用、数回にわたる幼児との触れ合い等、実践的・活動的な学習を取り入れたので生徒の意欲を喚起することができた。

また、問題解決的な学習では課題の設定、生徒が自分で課題を設定できる力を付けることが大切である。そこで、課題の設定を第1段階では「自分たちの生活に生かせる献立作り」次に加工食品を活用した「中学生ランチ」作りと全員共通の課題から始まり、最後には、自分の食生活の問題点を振り返り、自分の生活の中から課題を設定するなど、段階的に課題を設定していく学習を行ったので、生徒は生活の中の課題を見つけることができるようになった。課題の解決に当たっては、書籍や消費生活センターの印刷物などの資料、実物、インターネットを活用しての調べ学習や人との触れ合いを行った。さらに、実習を組み込んだので、知識・技術も身に付いた。生徒は、とりわけ最後の段階で、既習の知識や技術を上手に活用して積極的に課題を解決していった。このようにして学び方と知識や技術が身に付いたことにより生徒は、さらに家庭での実践に意欲を見せるようになり、生活に直接生かしたり、環境を大切にするなど広く問題を追求することのきっかけとなるなど、よりよい生活を目指し工夫していった。幼児との触れ合いの学習では、はじめに自分の成長を振り返り、保育実習で幼児の生活を体験することにより、幼児への関心を喚起しながら、基礎的な学習を課題をもって進められるようにした。まとめの段階では、幼児とかかわる家族の視点でふれあいタイムを体験し、課題を解決するとともに子どもが育つ環境としての家族や家庭について考えるなど、自分の生活に照らして考えることができた。

問題解決的な学習の評価は、食に関にする学習ではファイリングを、幼児との触れ合い学習ではポートフォリオを活用した。このことにより、生徒にとって自分の学びの過程が明確になり、できるようになった自分に自信をもった。この自信が意欲につながり、よりよい生活を営もうとする力になるなど「生活に生きる力」になった。

2 今後の課題

評価計画を作成し実践した授業では記録を取るなど評価を行ってきたが、指導と評価が一体化するには至っていない。さらに評価の研究を深める必要がある。また、ポートフォリオについても研究を深めていく。

平成13年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成13年度 第41号

平成14年1月23日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 株式会社 ドゥ・アーバン